



子どもとともに学ぶ(衣笠小学校)



県中学校総合体育大会 総合開会式(横須賀アリーナ)

輝け! よこすかの 子どもたち



インターンシップ(横須賀総合高校)



外国語活動(諏訪小学校)

コミュニケーションを図る資質・能力を系統的に育成

学習指導要領の改訂により、変わる外国語教育

新しい学習指導要領が公示され、小学校においては平成32年度から、中学校においては平成33年度から全面实施されます。学習指導要領とは、文部科学省が示した「小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の各学校で指導する教科等の目標や内容などの中核的事項をまとめたものです。この学習指導要領に基づいて、各学校では日々の教育活動を行っています。



現 学習指導要領

✓ 現 学習指導要領 (外国語活動・外国語)

学年	小学校		小学校		中学校		
	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
教科等	—		外国語活動		外国語		
年間 時数	—	—	35時間/年 (1時間/週)	35時間/年 (1時間/週)	140時間/年 (4時間/週)	140時間/年 (4時間/週)	140時間/年 (4時間/週)
目標	横須賀市では、 小学校1年から4年 においても、独自に年間 10時間の『外国語活動』 の授業を行って きました。		【抜粋】積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。		【抜粋】積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。		



新学習指導要領では…

✓ 新 学習指導要領 (外国語活動・外国語)

学年	小学校 [平成32年度から全面实施]		小学校 [平成32年度から全面实施]		中学校 [平成33年度から全面实施]		
	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
教科等	外国語活動		外国語		外国語		
年間 時数	35時間/年 (1時間/週)	35時間/年 (1時間/週)	70時間/年 (2時間/週)	70時間/年 (2時間/週)	140時間/年 (4時間/週)	140時間/年 (4時間/週)	140時間/年 (4時間/週)
目標	【抜粋】外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することを目指す。		【抜粋】外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す。		【抜粋】外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。		

新しい学習指導要領では、小学校3・4年において、週1時間の『外国語活動』の授業が行われるようになります。小学校3・4年で行う『外国語活動』においては、コミュニケーションを図る素地を育てるために、「聞くこと」と「話すこと」の言語活動を扱います。

新しい学習指導要領では、小学校5・6年において、週2時間の『外国語』の授業が行われるようになります。小学校5・6年で行う『外国語』においては、「聞くこと」と「話すこと」に加え、「読むこと」と「書くこと」の言語活動も扱います。

常葉中学校ブロック(常葉中、諏訪小、田戸小)の取組

常葉中学校ブロックでは、平成27年度から、文部科学省の「外国語教育強化地域拠点事業」における委託を受けて、外国語教育の充実に関わる研究に取り組み、3年目を迎えています。この研究には、横須賀総合高校も、小学校から高等学校までの12年間の外国語教育のつながりという視点で取り組んでいます。

常葉中学校では、文部科学省の研究委託を受ける中で、小学校とのつながりを意識した授業を行ったり、新しい学習指導要領を踏まえた取組を実践したりしています。

常葉中学校



常葉中学校の外国語教育の授業

諏訪小学校



田戸小学校



連携

諏訪小学校と田戸小学校では、文部科学省の研究委託を受ける中で、低学年で年間10時間、中学年で週に1時間、高学年で週に2時間の外国語教育の授業を行っています。

横須賀市の児童生徒は、外国の文化にふれる機会や英語を用いてコミュニケーションできる機会に恵まれています。常葉中ブロックでは、この環境と横須賀の特色ある外国語教育とを結び付けていく「横須賀を扱う独自教材」についても研究を進めています。



田戸小学校の外国語教育の授業

文部科学省の「外国語教育強化地域拠点事業」における研究委託の最終年となる今年は、全国の先生を対象とした「研究発表会」を開催し、研究の成果を全国に発信します。

- 平成29年10月4日(水)
横須賀総合高校
- 平成29年11月15日(水)
常葉中学校、諏訪小学校、田戸小学校

一人一人の自己実現を図り、 キャリア意識を育成 横須賀総合高校(定時制)

インターンシップ講演会を開催

横須賀総合高校では、キャリア教育を中心とし、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深める学習を重視しています。定時制では、その一環として市内事業者の協力のもと、希望する生徒を対象として35時間のインターンシップを行い、単位認定をするという新たな取組をスタートさせています。それに先立ち、昨年度末に、定時制の全生徒を対象としたインターンシップ講演会を開催しました。インターンシップ講演会では、この取組に協力



していただく3社の社長から、「仕事に対する誇り」「会社への愛情」「社長として大切にしていること」などについて、語っていただきました。

インターンシップ講演会

日時:平成29年3月17日(金) 17:30~19:05

場所:横須賀総合高校 SEAホール

対象:横須賀総合高校(定時制) 全校生徒

講演者

永井 福男 社長〔建設業〕

原田 周二 社長〔運送業〕

水沢 洋 社長〔サービス業〕

永井社長(株式会社 花和産業)

私たちが仕事をしなければ、「車は整備された道路を走れません。」「水道の蛇口から水が出ません。」「スイッチを入れても、電気がつきません。」「みんなの当たり前が当たり前であり続ける」ために、自分たちは仕事をしています。自分たちの得意なことを生かして、社会貢献することが、仕事の楽しみです。

原田社長(株式会社 原田運送)

私は、「安心・安全で、社員が働き続けることができる会社」を目指しています。通勤に時間はかかりますが、自分がやりたい仕事を求め、遠くの会社まで通うという働き方もあります。地元の会社で働き、通勤にかかる時間を家族のために使うという働き方もあります。自分に合う働き方を見つけてください。

水沢社長(サガミホールディングス株式会社)

※「会社に、どんな人材が欲しいですか？」と参加した生徒から質問がありました。その質問に対して、次のように回答されました。

失敗を失敗と思わないでプラスに考えられる前向きな人が欲しいです。コップに半分の水が入っていたときに、「これしか水がない。」ではなく、「まだ、こんなに水が入っている。」と考えられる人と一緒に仕事がしたいです。



市内事業者の協力のもとインターンシップを実施

平成28年10月に厚生労働省が公表した「新規学卒者の離職状況(平成25年3月卒業者の状況)」によると、就職をした高校卒業者の40%以上、大学卒業者の30%以上が就職後3年以内に離職しています。3年以内に仕事を辞めた人の理由については、3年以上勤めて辞めた人と比べて、「仕事が自分に合わない。」という理由が突出して多いという結果が出ています。このことを受け、高校在学中に本物の体験をしてほしいということから、インターンシップがスタートしました。

「生徒には、このインターンシップを通して、働くことの意味や仕事に対する誇りなどを社員の方々と一緒に働く中で感じ、自分の将来につなげてほしい。」という横須賀総合高校の先生の願いが、この取組には込められています。

✓ 3社におけるインターンシップ

株式会社 花和産業

金沢八景新駅舎施工現場や下水道管新設工事現場への同行、県土木担当者との打ち合わせなど、5日間にわたって、インターンシップを行いました。

「一つの仕事をを行うために、いろいろな仕事が増み重なっていることがわかりました。」と感想を聞かせてくれました。仕事を進めていく際に、違う立場の多くの人たちが協力をして、一つの仕事を成し遂げていることを、体験を通して感じていました。



株式会社 原田運送

御殿場の自動車工場や本牧埠頭での海上コンテナの積み降ろし現場への同行、自動車交通共済協働組合での安全教育など、5日間にわたって、インターンシップを行いました。

「地域で見かけていた原田運送のトラックがどのような仕事をしているのか、今回のインターンシップでよくわかりました。物流はつなぐ仕事で、たくさんの人が関わらないと機能しないということがわかりました。」と感想を聞かせてくれました。



サガミホールディングス株式会社

水の配送、プロパンガスの配送、営業への同行など、5日間にわたって、インターンシップを行いました。

体験した二人は、「サガミは、ガスと電気というイメージでしたが、自分たちが知らない幅広い仕事をしていることに驚きました。」「あらかじめスケジュールをもらい、毎日違う仕事を体験させてもらったので、今日は何をやるのかと、ワクワクして朝を迎えていました。」などの話を聞かせてくれました。



子どもの学びを豊かにするために

初任者研修

平成29年度、横須賀市の学校において、82名の新規教職員を採用しています。そのうち、教師として新たな一歩をスタートさせた初任者研修対象教員は76名です。教師としての基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるための実践的な研修が「初任者研修」です。「初任者研修」は教育公務員特例法に基づく研修で、校内で年間210時間以上、校外で年間18日以上研修を行っています。

✓ 初任者宿泊研修

平成29年8月21日(月)から22日(火)に、マホロバ・マインズ三浦の研修棟において、1泊2日の日程で、初任者宿泊研修を実施しました。

一日目の午前中は、『学び続ける教師を目指して』をテーマに、「わかる授業の導入・展開・まとめ」について講義と演習を行いました。

一日目の午後から二日目の午前にかけては、『確かな学力を育成する授業づくり』をテーマに、76名が7つのグループにわかれ、一人一人が模擬授業を行いました。模擬授業の後には、その授業の内容について、協議を行いました。お互いの授業を観合い、工夫しているところ、改善すべきところなどについての意見を出し合いながら、「授業づくり」について、考えを深めました。

二日目の午後は、今後の子どもたちとの関わりをイメージしながら、この研修で学んだことを振り返りました。



鈴木先生(平成29年度 初任者研修対象教員)にインタビュー

鈴木先生は、横須賀総合高校の卒業生です。小さい頃から人と関わるのが好きで、中学生のときに参加した活動の中で、小学生にゲームなどを教えた体験を通して、「学校の先生になりたいなあ。」と思い始めたそうです。

総合高校の1年生のとき、『産業社会と人間』という授業の中で、自分の将来について調べる学習があり、そのときの鈴木先生の研究テーマは「小学校の先生になるために」だったそうです。この学習を通して、「小学校の先生になる」という自分の夢に向かって、どのように取り組んでいけばよいのかの見通しが持てたそうです。

「今、小学校4年生の担任をしています。その子どもたちにとって、4年生という時間は人生で一度しかないもので、一日一日を大切に一緒に過ごしていきたい。」と話していました。



夏季休業期間中の研修講座

教育研究所では、7月25日(火)から8月24日(木)までの期間に、「各教科に関する研修」「支援教育に関わる研修」「学校づくりに関わる研修」など、33項目において、71の講座を開催しました。

教職員は子どもたちの学びを豊かにするために、夏季休業期間中に開催されている講座を選択して、自らの資質・能力を高めています。

「野生動物や海洋環境の実態」

講師 佐藤 克文氏

〔東京大学大気海洋研究所 教授〕

平成29年7月31日(月) 教育研究所

バイオリギング*によって記録されたデータをもとに分析・研究した野生生物の実態を、実際の画像・映像を交えてお話しされました。また、得られたデータから海洋環境についても知ることができるなど、夢が膨らむ研究であることがわかりました。「この面白さを自分なりに子どもたちに伝え、未来の研究者が出てくれることを期待しています。」などの感想があり、最新科学への教養を高めることができました。

※〔バイオリギング〕生物にセンサーなどを取り付けてデータを記録し、行動や生態を調査する研究手法



「想像力のスイッチを入れよう」

講師 下村 健一氏

〔元TBSアナウンサー〕

平成29年8月9日(水) ヴェルクよこすか

相手のことを考え、情報を正しく受け取ったり、伝えたりするスキルを子どもたちに養うために教員ができることについて、模擬授業形式でお話しをされました。

参加者からは、「今日の講座を聞いて、情報の受け取り方と伝え方がわかりました。」「授業例を教えていただき、今日の話を生かした授業をすぐに行いたい。」などの声があり、夏休み明けの授業につながる研修になりました。



「人を育てるということ」

講師 渡辺 元智氏

〔前 横浜高校野球部監督〕

平成29年8月10日(木) ヴェルクよこすか

横浜高校野球部における50年間の指導の中で、さまざまな経験を積み重ねながら、ご自身の指導方法が変わってきたことのお話をされました。特に、子どもを指導するときの言葉の重要性にふれ、「魂のこもった言葉でなければ、伝わらない。その子どもにかけ言葉は、日常から様子を見て、常に準備をしておかなければいけない。」と話をされました。最後に「愛情が人を動かす。」と締めくくられました。



一人一人にあった居場所を考える

不登校をともに考える会

6月24日(土)に、横須賀市立総合福祉会館〔第一音楽室〕において、「不登校をともに考える会 ～ハートフルフォーラム～」を開催しました。



プログラム

- ① 市内登校支援機関の紹介
 - 教育委員会教育相談 ● 横須賀市相談教室
 - 市内フリースクール(アンガージュマンよこすか、湘南国際)
- ② 不登校体験談(過去に不登校だった先輩より)
- ③ 個別相談(同時進行で座談会を開催)

平成29年度
不登校をともに考える会
ハートフルフォーラム
入場自由・参加費無料

日時
2017年6月24日(土) 13:00~16:00

場所
横須賀市立総合福祉会館
7F 第一音楽室(沙入駅より徒歩5分)

内容
市内中学校支援機関紹介
教育委員会教育相談
横須賀市相談教室
市内フリースクール(アンガージュマンよこすか、湘南国際)
不登校体験談(過去に不登校だった先輩より)
個別相談(同時進行で座談会を開催)

対象
小学生・中学生、保護者、教職員、相談員

お問い合わせ
横須賀市教育委員会
学校教育課支援教育課
TEL:046-822-4013

2年前のこの会でご自身の不登校体験について語ってくれたイラストレーターの“春野 はたる”さんがパンフレットのデザインを担当しました。

不登校体験談から

小中学校のときは、学校に通うことができないでいました。外に出た際、人とすれちがうときには、下を向いていました。横須賀総合高校の定時制に通うようになってからは、無遅刻・無欠席で登校しています。夢を持つことができたことが一番大きいです。今、車関係の仕事に興味をもっています。学校に通えないでいる人は、学校に通えない自分を悪いと思わないでください。また、親は、学校に通えない子どもを悪いとは思わないで、受け入れてください。私の親は、「家でできることを身に付けよう。」と言って、家事を教えてくださいました。



学校生活に関する悩みなどの相談 教育委員会 支援教育課 TEL:822-8564

編集・発行
責任者

横須賀市教育委員会事務局
教育総務部総務課 教育政策担当
〒238-8550 横須賀市小川町11番地

この冊子についてのご意見や感想をお寄せください。
TEL:046-822-9709 FAX:046-822-6849
E-mail: sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp